

事業の基礎情報

実施主体	熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会（代表団体ジオルダン）←協議会はNPO化の予定
事業実施地域	静岡県熱海市
共創の類型	官民共創・交通事業者間共創・他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉・こども・子育て・商業・宅配・物流・観光・まちづくり
共創パートナー	熱海市・熱海温泉ホテル旅館協同組合・一般社団法人 熱海市観光協会・特殊認可法人 熱海商工会議所、熱海営業自動車組合（一般社団法人 静岡県タクシー協会熱海支部）
運行形態	既存鉄道・路線バスとの乗り継ぎ連携を意識したタクシー、大型タクシー及び自家用有償旅客運送によるミニバス準定期運行。当該運行でカバーできない部分をAIデマンド型あいのりタクシーで補完。MaaSとして提供。
運行主体	熱海営業自動車組合（熱海市内を運行するタクシー、バス事業者の組織）

取組の概要

以降文中において熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会は熱海次世代観光・地域交通PL協議会またはantretと表す。

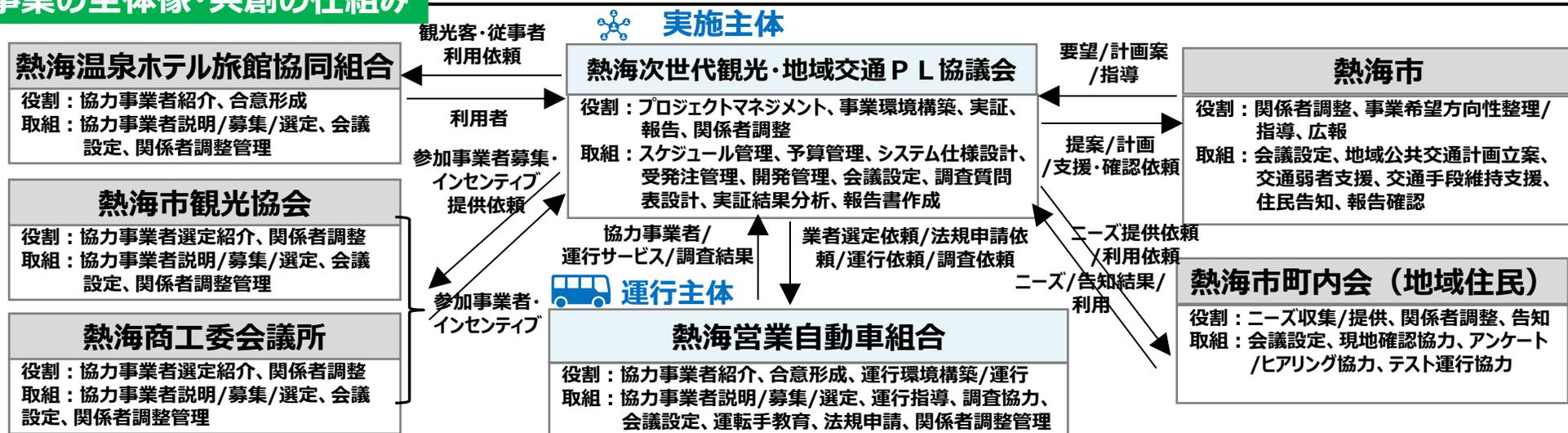
（現状の地域課題と事業目的）

地域課題：バス路線廃止対策、高齢化による免許返納者の増加対策、タクシー不足対策、観光客・地域住民の移動手段確保対策
 事業目的：地域交通空白地域の解消、利用者が許容可能な移動費による交通手段提供、自治体の地域交通手段維持費用の軽減、地域営業自動車の運転手不足解決及び負担軽減とそれらによる維持

（事業の概要）

上記の事業目的を達成のため、熱海市、熱海営業自動車組合と連携して、利用者（主：交通空白地域住民、従：観光客）の目的に合わせて、利用者の許容可能な運賃及び運賃以外の利用条件に沿った、単独もしくは組み合わせの移動手段を提供する。既存交通手段保護のため、利用者は会員化し、コールセンター、アプリにて受付を行い、紙やスマホ・ICカードを媒体とするチケット（電子チケット）にて乗降管理を行う、自宅、宿泊施設送迎を前提とする旅客運送を行う。尚、運転手不足解消及びコスト削減のため、自家用有償旅客運送のスキームを活用するほか、事業化に際して、高齢者、障害者、子供等の交通弱者の移動費補助と交通事業者の事業リスクヘッジをするための、仕組みの構築も図る。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

* 以下運行コスト削減は自家用有償旅客運送による、運行管理コスト削減は自動受付システムによる

（地域の関係者との連携・協働）

熱海次世代観光・地域交通 P L 協議会：事業主体として事業を計画、マネジメントするほか、環境構築、実証、調査を通じて、主体的に事業を推進する

熱海市：オブザーバ兼実用化時の主体候補として、協議会と共同で事業を計画し、広報紙による告知や、福祉部門、子育て支援部門による利用促進支援で事業の効果的推進を支援する。

熱海市交通空白地域町内会（地域住民）：利用者組織として地域交通基盤維持のための住民に向けた啓蒙と、利用者確保により事業推進に貢献する。

熱海営業自動車組合：移動支援のための運行の担い手として、協議会作成の計画に基づき運行を実施、利用者情報等を収集、事業推進に貢献する。

熱海温泉ホテル旅館協同組合：サービス価格低減の担い手として、サービスのタイムシェアによる観光客、従事者の利用を実現し、事業推進に貢献する。

熱海市観光協会/熱海商工会議所：コスト低減の担い手として、利用者の観光施設や店舗の利用における交通費補填を実現し、事業推進に貢献する。

（実証事業により見込まれる効果）

想定成果：①より効果的な運行方法の抽出、②コストダウン方法と方法毎の原価削減効果の抽出、③売上げ補填策とそれぞれの売上補填効果の抽出、④事業リスクの大きさとリスク担保策の抽出、⑤実用化事業計画の策定

直接的効果：①実証対象地域への移動手段提供実現、②40%の運行コスト削減*、③30%の運行管理コスト削減*、④延べ利用者数50%増

波及効果：①観光客送迎に困るホテル旅館への送迎手段提供実現、②観光施設や店舗における安定的誘客の実現、③営業自動車運転手の確保

取組の詳細

（事業実施手順・スケジュール）

取り組み内容	担当組織	開始日	終了日	2024年												2025年		
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実施計画策定	antret	交付決定日	5月17日	→														
開発仕様設計	antret	5月1日	6月21日	→														
調達（車両/車載機器）追加分のみ	antret	5月20日	6月21日	→														
事業HP構築	委託外注	5月20日	6月21日	→														
データ収集管理システム改造	委託外注	5月1日	6月21日	機能改善 →														
配車管理システム改造	ジョルダン	5月1日	6月21日	機能改善 → 78条対応														
MaaSシステム改造	ジョルダン	5月1日	6月21日	機能改善 → 78条対応														
地域電子有価証券システム開発	委託外注	5月1日	6月21日	機能改善 → 電子チケット・バスシステムの統合化														
自動受付システム改修	委託外注	5月1日	6月21日	機能改善 →														
法規申請	antret	4月22日	10月31日	21条申請 → 78条申請														
事業環境構築	熱海市/antretWG/外注	5月1日	6月21日	AntretNPO化 自家用有償運旅客運送課題抽出運行 → 自家用有償運旅客運送による実証														
実証実験	熱海市/antretWG/外注/営業自動車組合	5月1日	2月26日															
実験結果調査・分析・まとめ	antret/外注	5月1日	2月26日	事前調査 → 事後調査1 → 事後調査2														
報告書作成	antret/外注	5月1日	2月26日	---														
本事業の報告	antret	2月26日	2月26日															

手順は以下の通り

- ①前年度実証結果を受けた改善
- ②自家用有償旅客運送を意識した21条によるシミュレーション運行
- ③自家用有償旅客運送による実証
- ④実証結果を基にした事業化計画立案

注) 右表において略称は以下の通り

antret : 熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会

antretWG : 上記協議会会員の商工会、観光協会、温泉ホテル旅館協同組合より構成されるWG

（補助事業実施後の予定）

- ①実証結果報告書で事業リスク担保策を含めた事業化計画案を作成
- ②事業化リスクと事業リスク担保策を基に市とリスク担保について協議、市側で出来る事含めた実用化条件を明確にする。
- ③対象エリアごとに利用者側と利用者が利用するための条件について協議し、利用条件を明確にする。
- ④②③を基に具体的な事業化計画を作成
- ⑤協議会を基に出資を募りまちづくり会社を設立、観光事業※との連携も含めた形で、3年を目処にしたビジネスモデルを確立するためのテスト事業を実施、3年目で実事業化、5年目での黒字化を目指す。

※年金生活者が多く少子高齢化が進む交通空白地域を対象とする事業は、当該地域利用者からの運賃収入以外の収益で黒字化を図る必要があり、どういった収益モデルを構築できるかがカギとなる。今年度事業の中で、まずは観光地を対象とした、その収益モデルのヒントが抽出できればと考えている。